



直近の豪ドル(対円)の動向について

ポイント

- ◆豪ドル(対円)は、今年4月に直近の高値を付けた後下落しました。豪ドルの下落要因は、1) 中国経済のスローダウン、2) 国際商品市況の低迷、3) 豪州準備銀行(RBA: 中央銀行)の利下げ、の3点が考えられます。
- ◆中国経済のスローダウン懸念は薄らいでいるように思われます。豪州の輸出の約4分の1を占める鉄鉱石の中国の輸入価格が上昇している点と中国株式が上昇に転じている点などがその理由としてあげられます。一方8月6日にはRBAが利下げを実施するなど、市場では、更なる豪ドル売りの材料は少なくなっているとの見方も多くなっているようです。
- ◆これまでの豪ドル安による交易条件の改善や、9月7日に行われる総選挙への期待から、豪ドル(対円)は、緩やかに上昇するものと思われれます。

●7月末時点での豪ドルの年初来騰落率は、対円で2.5%、対米ドルで13.6%の下落となりました。これまでの豪ドルの下落要因は、1) 中国経済のスローダウン、2) 国際商品市況の低迷、3) RBAの利下げ、の3点が考えられます。

●豪州の輸出は中国向けが30.2% (6月豪貿易収支)です。中国経済のスローダウン懸念が豪州経済の先行きに対する不透明感を増幅しました。今年1月以降、中国株式は下落し、中国株式に連動しながら、豪ドル(対円)は下落しました。中国株式については6月27日を安値に回復してきています。(図表①)

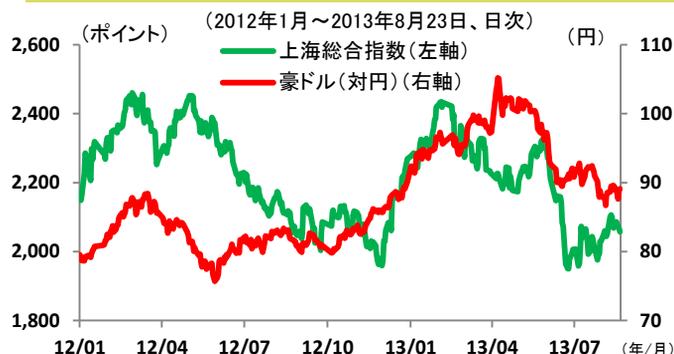
●“資源国通貨”といわれている豪ドルは、国際商品市況の動きにも左右されます。特に、鉄鉱石は豪州の輸出数量の24.5% (2011年)を占め、中国の輸入鉄鉱石価格と豪ドル(対円)は連動した動きとなっています。中国の輸入鉄鉱石価格は6月7日を安値に上昇してきています。(図表②)

●RBAは8月6日の金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引き下げ、年率2.5%にしました。利下げによる内需関連部門の回復が、経済成長をけん引する可能性もあると考えられます。(図表③)

●これまでの豪ドル安による交易条件の改善で、輸出の増加が見込まれることや9月7日に新首相のラッド首相の下、総選挙が実施され、さらなる景気刺激策が打ち出されることも予想されることなどから、豪州の景気は回復してくる可能性があると考えています。そのため、今後豪ドル(対円)は、緩やかに上昇するものと思われれます。

出所: 図表①～③は、ブルームバーグ、豪州外務省、豪州統計局のデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

【図表①: 中国株式と豪ドル(対円)の推移】



【図表②: 中国の輸入鉄鉱石価格と豪ドル(対円)の推移】



【図表③: 豪州金利と豪ドル(対円)の推移】

